

7 エビデンスに基づく授業改善に向けた支援

1 子ども一人一人の「学力のレベルと学力の伸び」の可視化

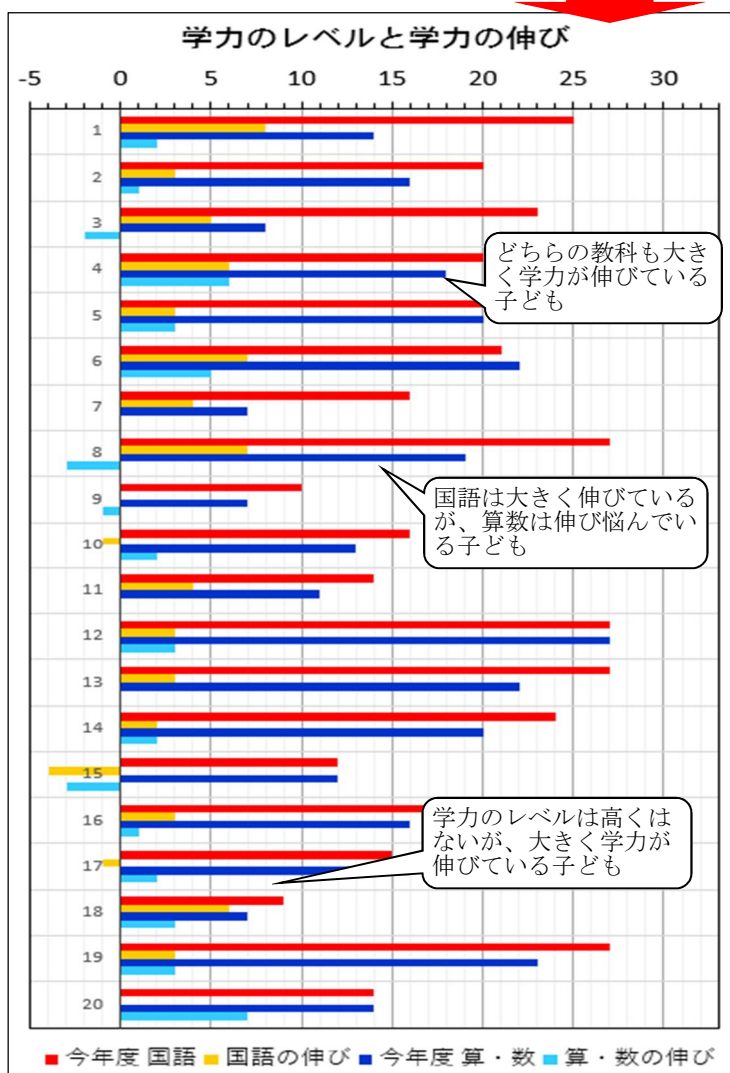
各学校に配付されている「帳票40」には、以下のとおり前年度調査の学力のレベルとの比較により、「昨年度からの学力の伸び」が数値として示されている。

40 学校用		国語		算数・数学																
		R3レベル	昨年からの学力の伸び	R4レベル	R5レベル	昨年からの学力の伸び	R4レベル													
学籍平均	7-C			6-C																
学校平均	7-C	4	5-A	6-C	2	5-B														
市町村平均	7-B	3	6-B	6-B	2	5-A														
福島県平均																				
2023	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	****301	5	1	1	2	****301	6	1	1	2	9-C	8	6-B	5-B	2	4-A
2023	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	****323	5	1	2	2	****323	6	1	2	2	7-B	3	6-B	6-C	1	5-A
2023	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	****304	5	1	3	2	****304	6	1	3	2	8-B	5	6-A	3-B	-2	4-C
2023	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	****306	5	1	4	1	****306	6	1	4	1	7-B	6	5-B	6-A	6	4-A
2023	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	****324	5	1	5	2	****324	6	1	5	2	9-B	3	8-B	7-B	3	6-B
2023	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	****307	5	1	6	2	****307	6	1	6	2	7-A	7	5-B	8-C	5	6-B
2023	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	****325	5	1	7	2	****325	6	1	7	2	6-C	4	4-A	3-C	0	3-C
2023	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	****308	5	1	8	1	****308	6	1	8	1	9-A	7	7-B	7-C	-3	8-C
2023	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	****310	5	1	9	1	****310	6	1	9	1	4-C	0	4-C	3-C	-1	3-B
2023	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	****312	5	1	10	2	****312	6	1	10	2	6-C	-1	6-B	5-C	2	4-B

義務教育課では、「学力の伸び」から、子どもたちのどのような姿が見えてくるのか、「帳票40」の数値だけでは見えにくいので、と考へ、「学力のレベルと学力の伸び」を可視化する「グラフ化ツール」を作成し、県内すべての小・中学校、義務教育学校、県立特別支援学校小学部・中学部及び、市町村教育委員会へ配布し、「グラフ化ツール」の使い方及び活用事例についてオンライン説明会を実施した。

右のグラフは、「グラフ化ツール」によって作成された小学校6学年のグラフの例であり、子ども一人一人の国語と算数の「学力のレベル」と「昨年度からの学力の伸び」を表している。

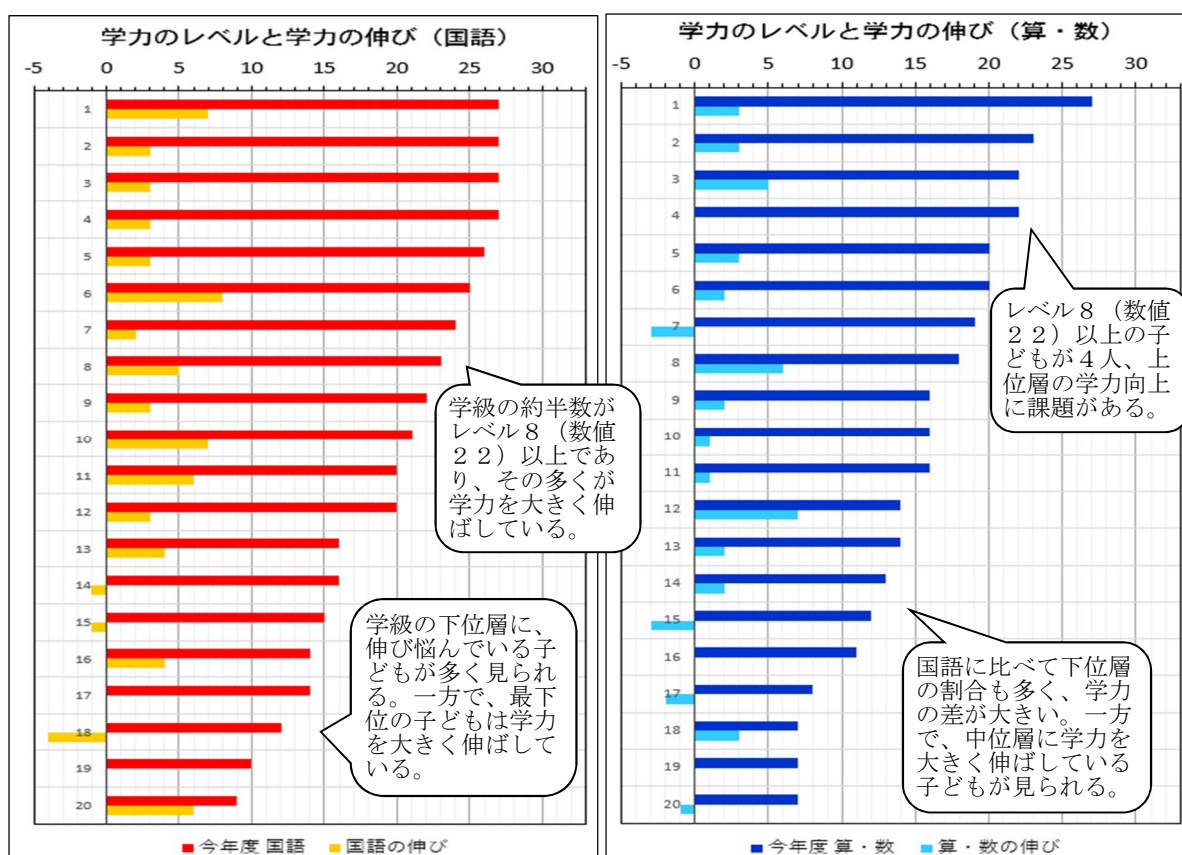
このグラフから、例えば、どちらの教科も大きく学力が伸びている子どもや、国語の学力は大きく伸びているが、算数は伸び悩んでいる子どもなど、子ども一人一人の「学力のレベル」と「昨年度からの学力の伸び」の状況が見えてくる。



これらのグラフを基に、子ども一人一人に寄り添い、称賛したり、励ましたりすることはもちろんだが、これらの結果を授業改善に生かすことが大切である。単に結果を見て、学力の状況を把握するだけでなく、例えば、学力が大きく伸びている子どもを、校内研究授業における抽出対象とし、事後研究会で学習への取組状況等を共有したり、伸び悩んでいる子どもに対する個別支援の方法を検討したりすることが考えられる。他にも、子ども一人一人にどのような変容があったのかを、生徒指導の面から話し合うことも考えられる。

2 エビデンスを教科指導に生かすために

子ども一人一人の学力の状況を把握すると共に、教科指導にも生かしたい。そこで、以下のように教科ごとにグラフを分けて表してみる（学力のレベルと学力の伸びの順）。



例えば、上の2つのグラフを見ると、国語においては、学級の約半数がレベル8（数値22）以上であり、その多くが学力を大きく伸ばしている。この学級での取組を互見授業等により共有することで、学校全体の授業改善が図られる。また、算数においては、レベル8（数値22）以上の子どもの数が少なく、上位層の学力向上が課題である。一方で、中位層に学力を大きく伸ばしている子どもがいることから、どのような指導が、学力の伸びによい影響を与えているかを検証し、自身の授業を振り返ることで、具体的な指導方法等の改善に繋がれると考える。

さらに、自校において、教科のどの領域、どの観点において強みや課題が見られるかについては、「帳票09」や「帳票28」から、学年全体や学級ごとの状況を把握することができる。さらには、必要に応じて「帳票01」から、子ども一人一人の採点結果を確認し、個別最適な学びに繋げることも大切である。